

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 朽網 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

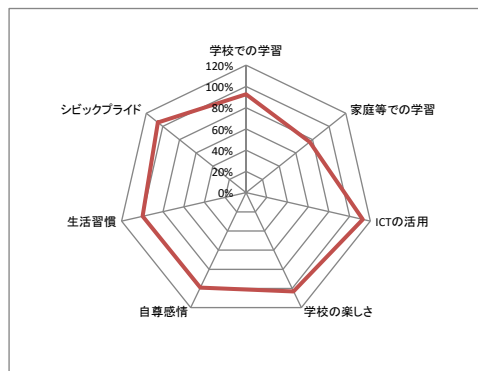
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には、全国平均を下回る結果となっている。情報の扱い方に関する事項では、正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができてい	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができていないかを問う問題や、文の中における主語と述語との関係をとらえることができていないかを問う問題で正答率が低かった。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全体的には、わずかに全国平均を下回る結果となっている。特に、データの活用を問う問題で正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	除法において、除数と商の大きさの関係について問う問題や、円グラフの特徴を理解しそこに示されている割合を読み取る問題で正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	二次元の表や折れ線グラフから必要なデータを読み取り、落ちや重なりがないように分類整理したり条件に当てはまる言葉と数を用いて回答する問いで正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して90%を超える児童が肯定的に回答している。 ・ICTの活用に関する項目では、昨年度よりさらに肯定的な回答が増え、全国の結果も上回った。中には90%を超える児童が肯定的な回答をしている項目もあり、操作スキルの向上がうかがえる。今後も積極的な活用を図りたい。 ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の問いで高い割合での肯定的な回答が得られた。学校での学習だけでなく、協力的な地域・保護者との関わりの中で育まれていると感じる。 ・家庭等での学習に関する項目が全体的に見ると低い結果となっているが、昨年度に比べて改善傾向にある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・「朽網スタンダード」の授業の定着を図り、学校全体で「わかる授業づくり」を目指す。
- ・基礎的・基本的な学力の定着（特に学年配当漢字の定着・計算力の向上）を図るために、朝学習の時間を活用し、漢字テストや音声計算に全学年で取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学年ごとの家庭学習の目安時間（低学年20分以上、中学年40分以上、高学年60分以上）の定着を図る。
- ・自主学習コンテストの開催を継続し、意欲的に家庭学習に取り組むことができるようにする。
- ・学校だよりや学年・学級通信等で、家庭学習の重要性について知らせていくことで、保護者への啓発を図る。